



ダニ防除のための研修・実証試験を開始しました

養蜂の病害虫のひとつであるミツバチヘギータダニは、世界的に大きな問題となっており、モンゴルでも例外ではありません。プロジェクトにも、特に昨シーズンから多くの相談が入っており、ダニの防除が喫緊の課題となっています。

こうした背景から、プロジェクトでは、ダニトラップという防除技術をモンゴルに導入するための実証試験を開始しました。この技術は、オス蜂の巣にダニが入りやすいという性質を利用して、オス蜂専用の巣枠を蜂群に入れ、これを定期的に取り出すことでダニを排除するものです。薬剤を使用しないため、不適切な医薬品の使用も防ぐことが期待されます。

この技術を協力養蜂家に導入してもらい、養蜂家が取得した巣のサンプルを獣医が集め、ダニをカウントすることで、防除技術の実証を行います。また、養蜂家と獣医に技術を移転しながら実証を行うことで、実地研修の役割も果たします。

試験は、IVM（獣医薬研究所）、ダルハンオール県獣医局、セレンゲ県獣医局と共同で実施しています。試験は9月中旬まで実施し、結果を踏まえて、モンゴルにふさわしい技術を開発・普及していきたいと考えています。



ダニトラップ（オス蜂専用の巣枠）

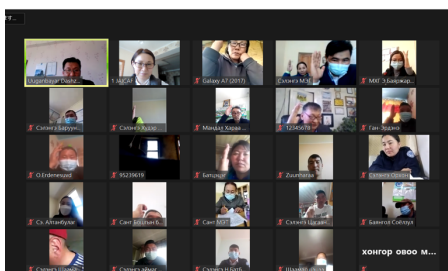


サンプリングのために準備した資材

MONMAP-AVCに協力して獣医研修を実施！

6月17日と18日に、JICAの農牧業バリューチェーンマスタープランプロジェクト（MONMAP-AVC）が実施するハチミツパイロット事業の一環として、獣医向けのオンライン研修が行われました。この研修は、昨年4月に獣医庁から発令された養蜂ガイドラインに沿って、獣医が養蜂分野で行うべき業務や、業務に必要な養蜂の知識を教えるもので、研修内容にはBeeDepの成果が活用されています。

17日はダルハンオール県の獣医10名、18日はセレンゲ県の獣医42名を対象に行いました。みな熱心に参加し、薬剤の残留の管理、輸入蜂群の管理などについて質問がありました。研修の結果は、今後、BeeDepの活動にも生かしていきます。



セレンゲ県獣医向けの研修。最後に全員のカメラをオンにして、挙手制のテストを行った。

現地からの報告



プロジェクト・マネジャー
西山亜希代

4月13日から6月25日まで、ウランバートルに滞在していました。

今年のモンゴルは雪や雨が多く、花が沢山咲くのではないかと期待する一方、採蜜時期の雨は、養蜂にとって大きな困難です。

モンゴルはCOVID-19の感染が拡大しており、養蜂も、越冬庫に行けなかったり、蜂場への移動や販売のための移動ができなかったりと、大きな影響を受けているようです。適切な時期に病害虫の防除が出来ないこともあったでしょう。

ダニの蔓延や不適切な医薬品の使用など、心配することも多くあります。

そんな中、IVMやダルハンオール県、セレンゲ県、他のプロジェクトなどと連携してプロジェクトを進めています。本プロジェクトだけで実施するよりも、もっと大きな成果につながることを期待できます。

